磐城毎日

社長 大田黒兵衛
発行所 福島縣平市南町二一
株式會社 磐城毎日新聞社
編集兼印刷人 遠藤孝倫
電話（平）一二一〇番

土木建築請負
磐城土建工業株式會社
社長 强口唯七郎
平市小太郎町
電話五・二六三・二〇三四番

襲ふ傳染病の恐威

蔓延の兆、既に九名死亡

平市内の腸チブス、疫痢、赤痢の發生は日毎増加の傾向をみせて廿六日現在で消化器關係傳染病は赤痢の廿二名を筆頭に疫痢十二名、チブス三名、計卅七名、内既に九名の死亡を見てゐる傳染病は十年來の大流行であると云はれ、この原因を市衛生課に聽いてみると腸チブスには豫防注射はあるが疫痢、赤痢には効果的な薬がない爲その豫防には各個人が暴飲、暴食、寢冷、未熟な果物及び腐敗しかけた食ものを執らない事で家庭に於けるズルファミン劑の乱用も菌自体の抵抗力を増す外食糧事情の緩和によつて準備委員會を開催し病院運營に關する具体案を審議する事となつた、一時停頓する過食も傳染病の猛威をふるう原因となる、現在赤痢の特効薬としてクロロマイセリンやオーリヨマイシンの形であつた組合病院運營計畫も急速に進展するものと見られるに至つた

九月一日午前十時三十分から地方事務所會議室に於て準備委員會を開催し病院運營に關する具体案を審議する事となつた、一時停頓の形であつた組合病院運營計畫も急速に進展するものと見られるに至つた

宮廷寫眞師圍み座談會を開く

平光畫會では來る三日午後一時より宮廷寫眞師として斯界の第一人者である熊谷辰男氏を招き寫眞の實ぎ指導をあおぎ座談會を開く、室内ボートの實地指導熊谷先生作品六十余点のかん賞等終つて懇談會に入る、會費百円で多數の參加を希望してゐる

列車に投石

廿六日午前七時二十分頃下り二一三列車が鹿島―日立木間で列車投石にあつた被害はなかつたが犯人嚴探中

勞働省記念週間

勞基署で街頭相談も行ふ

勞働省設置三週年記念週間は來る一日から一週間行われる、平勞基準監督署では職安所勞政事務所と協力種々記念行事の具体策を練つてゐるが同週間中は平及び小名濱等各映畫館で勞働者の入場料割引により記念披露を行ふ外、平驛前、小名濱驛前では勞基署員が出張法規其の他についての街頭相談などを行ふことになつた

定例縣議會で組合病院に對する縣費補助を上程審議され、補助額が二百十万円に決定したので町村會では來廿一日湯本自治會館に開講の講演續いて質疑應答があつた第四回夏季勞働大學講座は廿六日午前十一時に豫省會があり全十一時閉講式八時より水谷文部政務次官、氏家縣教育委員、松本湯本町長の挨拶、表彰狀授與の精神文化の昂揚について

組合病院の縣補助額通過

石城郡町村組合病院の運營計畫は縣費の補助金額が未決定のため休止の狀態にあつたが過日開催された八日

農地分合運動

近く展開

九月一日午前十時から石城地方事務所で縣農地交換分合推進協議會を開き農地委員、推進委員その他關係者が參集して分合の啓蒙運動の徹底を圖ることになつた

勞大講座おわる

市街の南部發展に伴ひ

兒童増加に三小校増築

平市立第三小學校は平市の商工地區が地域的に東南地區に發展する傾向から就學兒童が年々増加の一途をたどり、廿四年度には卅五學級に相當する學童を廿七學級に壓縮して收容しなければならない實情で教育上由々しい問題として當時論議されたが、廿五年度になつて鎌田山に新築中の第二中校舎が落成し第二小學校の一部を校舎に充當していた第二中が新校舎に移轉した結果、第二小學校に教室の餘裕が出來た爲め市當局では市内小學校の通學區域の變更を斷行し第三小學校の餘剰生徒を第二小學校に移を必要とし廿五年度、廿六年度の二ケ年繼續事業で増築を計畫し廿四日開催した定例市議會に廿五年度に於ける第三小學校増築に要する豫算として現在の第三小學校の就學生徒數は千四百五十名で校舎の生徒を收容するために特別きよう室は勿論しよく員宅をきよう室に當て廿七學級に收容しているが、一きよう室の標準收容數は五十名となつているにも拘らず現在一きよう室平均五十四名で標準數より四名超過し、猶増加の傾向にあるので市當局では第三小學校の増築を必要とし廿五年度、廿六年度の二ケ年繼續事業で増築を計畫し廿四日開催した定例市議會に廿五年度に於ける第三小學校増築に要する豫算として現在の第三小學校の就學生徒數は千四百五十名で校舎の生徒を收容するために特別きよう室增築に要する經費九時十分ころ市内をウロついてゐるところを平市署に窃盗容疑で檢擧された

及傷運轉手

四ツ倉で逮捕

四ツ倉町仲町一〇五トラック運轉助手八巻秀重(二七)は上し原案通り可決され増築も正式に決定した

敷地買收して着工の豫定

第三小學校の増築敷地は同校東側の水田七百坪を買收する計畫で増築の校舎は現在の北側校舎に接續して建坪百十坪、二階建とし四きよう室、南側校舎に接續して建坪六十六坪、平家建として二きよう室で都合六きよう室增築される、市當局では追加豫算が確定したので百六十八万四千円を計

弾藥引揚を警戒

遠藤署長對策に出張

小名濱港沖合に終戰當時放棄した弾藥等砲金類の引揚作業については當局の指示あるもで取締りに何等法的な根據なく只徒に引揚げを禁止してゐるもので嚴重に警戒に當つてゐるがその網をくぐり密かに引揚してゐる者もありと風評から小名濱遠藤保安署長は之れが打合せのため鹽釜保安本部に出張打合せ中である

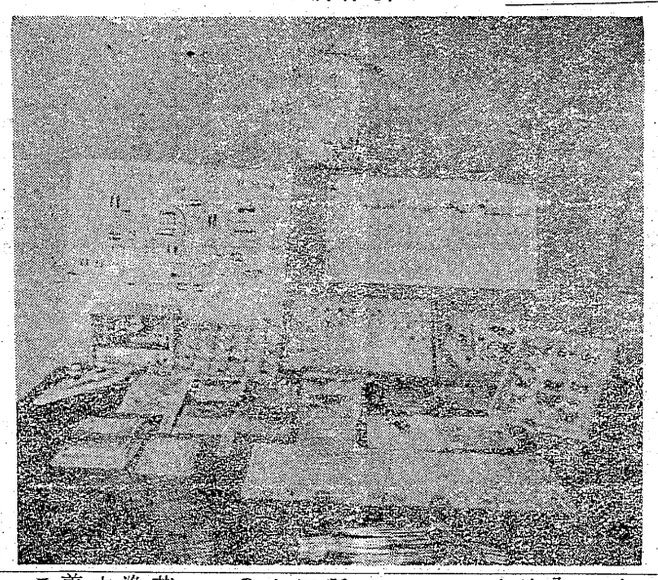
學校文化賞

夏委努力兒童へ

平第三小學校の夏休み中の兒童學習努力展は日記、研究物採取、標本、圖畫、工作等多數が陳列され各學級別に審査の結果優秀者に對し學校文化賞を與えることになつた、入賞者は

○二年五組　檜山英子
「天氣しらべ」
○三年三組　中野正規
「繪日記」
○四年三組　吉田富美子
「朝顔の繼續觀察」
○五年四組　根本和夫
「昆虫の採集標本」
○六年二組　渡邊英明
「郷土の鑛物」
○六年三組　猪瀬守男
「二球受信機の製作」

寫眞＝は研究品としゆう集品の山



受講者代表の挨拶内田視學官の閉式の辞で終つた

市の盆踊り

臨時列車増發

お盆を迎えた平驛では近郷からのお盆客の混雑を防ぐため臨時列車の運轉を行ふ特に今年は七夕祭りなどの人出が見ると昨年度の約二倍の人出が豫想されてゐるので昨年までは下り久の濱行一本の臨時運轉だつたものを、上下各線とも増發をする、臨時列車の運轉時刻は上り廿八、九の兩日平發午後十一時十分＝勿來行下り廿七、八、九の三日間で平發午後十時五十五分＝久の濱行、なお磐越東線は廿七、八、九の三日間平發小川郷行、午後八時二十分を同十時三十分に時間變更運轉する

常磐地區炭

七月分出炭量

常磐炭田の七月分出炭量は二十二万五千四百二十九屯で送炭は仙台方面二万一千屯、東京方面十三万三千屯名古屋方面五千二百屯、國鐵四万四千屯、山元消費その他十一万六千屯で六月分繰越貯炭五万五千屯に比し七月の次月繰越六萬四千屯約一万屯貯炭が上廻つてゐる

漂流死体を發見

保安署で調査中

廿六日正午頃小名濱町漁夫岸波金七さんが沖合でスヾキ釣り中漂流死体のあるのを發見小名濱保安署に屈出た、取調べの結果去る十八日衣類を海岸に残し行衛をくらました、同町日本水素株式會社工員中村善政(三五)とではないかと見てゐる

鯨に澤ケ金

お盆と魚喜民村

二十六日午前五時ころ双葉郡久の濱町字金ケ澤地内海岸に全長二間半、重量百貫目、時下三万円相當の鯨が漂着してゐるのを同字矢吹市太郎(五〇)さんが發見、一大事到來とばかり部落民を呼び集め天は吾を見捨て給わず、これでお盆魚は十分と部落民總出て引き上げた、部落民の話によれば鮫群の襲撃からさけやうとして陸岸に泳ぎあげたものであらうと語つてゐる

忍びよる秋空に櫻花狂い咲く

市内字五色町カフエー榮樓の吉野櫻が廿五日夕刻から何を間違えたか櫻の花が五つ六つ狂い咲き町内の人々をアツトさせた、櫻のくるい咲きも早咲きは時折見受けられるが、八月中ばに咲いたのはめずらしいと同町内民も語つてゐる、聞き付けた人々が花を見んと押かけ只ならぬ騒ぎであつた

四ツ倉港災害

復舊を陳情

平土木監督所の上村所長は縣港灣課窪島ぎ師とともに四ツ倉港の災害ケ所六百五十万円の早期復舊方を陳情のため二十五日夜上京した

平驛にスリ

茨城縣多賀郡大津町一四六漁業菊地善次(二八)さんは廿六日午前七時四十四分で平着驛階段上で千八百円をスラレ平公安室に届け出た

窃盗容疑檢擧

余罪取調中

住居不定無職影山孝一(二四)久の濱町東町三千野増治(三二)は共謀して廿五日午前十時頃好間村大舘地内の民家からサンダル其の他を窃盗したことがわかり同日午後市内丸サ野榮市場はうら盆

押賣り檢擧

住所不定指物大工廣仲章平(三二)同行商北島丑之助(三八)は廿五日午後五時ころ市内二丁目附近で鉛筆などの押賣りを行ひ末には買えと恐喝するなど數ケ所で行い同日午後七時四十五分ころ恐喝容疑で平市署に檢擧された

商狀、經濟欄

【鮮魚】廿六日現在卸値(單位貫)

かつを　四八〇円
すゞき　七五〇円
あじ　五〇〇円
ひ　五〇〇―四〇〇円
かながしら　三〇〇円
きちじ　二五〇円
わび　七〇〇円
サツマ揚　二七〇円

市況昨日より海上時化のため幾分値上りの傾向を示してゐるが人氣はうら盆のために活潑

【青果市況】丸サ市場

きうり　七〇―四〇円
なす　八〇―五五円
ねぎ(把)　一二―八円
玉ねぎ　五〇―三〇円
ごぼう　一四〇―八〇円
人参　一九〇―八〇円
大根　四五―三〇円
大根葉(把)　三円
ほゝづき(個)　一円―八〇錢
馬鈴薯　四五―三〇円
葉しようが(束)　一五―二円
とうもろこし(本)　七―五円
かぼちや　四〇―一〇円
里いも　八〇―六〇円
さつまいも　一〇〇―八〇円
枝豆(把)　三〇―一〇円
ぶどう　一六〇―一三〇円
青梨(八雲)　二八〇―八〇円
赤梨(石井早稲)　一四〇―八〇円
西瓜(山形若松より二千七百貫)　八五―六五円
りんご(青森産四貫匁入)　一四〇〇円

市況きうりの値上りが目立つてゐる、人氣は活潑

市内丸サ野榮市場はうら盆

社告

舊盆を機會に工場を整備するため二十八、二十九日の兩日臨時休刊を致します、從つて本紙二十八、二十九、三十日附の新聞は發行致しません

八月二十七日

磐城毎日新聞社

【株式市況】磐城證券26日現在

前日の日本商社の海外支店新設問題に物産商社關係及海外資産云々にて海上、船舶、紡績等强調、引後氣配も尚强調にて出來高約一六〇万株

鋼管　七三　呉羽化　二六
東洋紡　二三四　苫小牧　一七六
鐘紡　一三七　十條紙　一九五
日清紡　三九　本州紙　二三〇
呉羽紡　一三五　日セメ　八四
日東紡　一二四　磐城セ　八三
片倉　七五　小野田　一四四
帝人　一七六　不動新　二七三
東洋レ　一四八　陽和不　―
新光レ　三〇〇　開東不　―
山バル　二八一　三越　四〇三
東海上　五七五　日麥酒　四七五
新郵船　一九七　朝麥酒　四六五
三井船　二四六　キリン　二六〇
日發　二八　寶酒造　一五三
三井山　五三　野田醬　二九五
日石　九〇　豊年油　一二九
三井造　一九三　高壓　六〇
日立　二六　日産化　六三
東北パ　一七八　日活　一五〇

貸席
和風茶房と家族風呂
志乃婀
平市伸町21　電話280
開店披露

至急求む
一、店員　二名（二十二・三才マデ）
一、寫眞助手　一名（二十三才マデ）（經驗のない方でもよい）
一、御希望方は履歷書御持參の上御來店下さい。平市三丁目三八
田中カメラ店

裸の祭典??　平文化
裸体の美女を巡つて次々に起る官能的な美しい笑と踊りのアルバム、地方初公開
出演者
東京セントラル　マリーみづほ
日小バーレスク　アンナ春丘
日舞ズトリツプ　川田景子
ルミー・月　他十五名
樂團オリオンズ
27日～29日
興建本二々堂
【組番】……
1踊ブギウギ　2スターダスト
3すんどこ節　4踊るルムバタンバ
5今様彌次喜多(女の都へ行く)
27日迄
二十八日より
執行猶予
三本指の男
原作　小山いと子
◎入場料百円　中人八十円（十八才未滿者御斷り）

災害河川の緊急事業

予算三千五百萬圓で緊急着手

二十五年度第四回災害復舊工事の緊急工事箇所の査定は廿三日から三日間平土木監督所大塚、堀川兩ぎ師が出席して建設省で行われたが、平土木監督所管内は縣營によるもの四十一ヶ所、三千四百五十二万九千圓、町村工事が十二ヶ所、六百三十七万六千圓が査定になつた、實施計畫の出來次第着工する運びで九月初旬からおそくとも着工、十月一日ごろは廿三日から三日間平土木監督所大塚、堀川兩ぎ師が復舊が廿四ヶ所、二千七百七十六万二千圓、砂防が一ヶ所、五十五万二千圓、道路八ヶ所、三百六十二万九千圓、橋梁八ヶ所、二百五十八万六千圓で最も災害の多いのは好間川と仁井田川の流域等が上げられてゐる

なお事業種別によると河川

同　期　佐藤　一(三八)
同　無　杉浦　三郎(四八)
同　太田　省次(三四)
同　濱崎　二雄(二二)
同　佐藤　代治(三五)
徴役十五年　岡田十良松(四四)
同　加藤　謙三(二〇)
同　二階堂武夫(三五)
徴役十二年　小林源三郎(二二)
同　菊地　武(一九)
同　大内　昭二(二〇)
徴役十年　佐々木園子(二六)

非難の認定講習

通信講座免許試驗へ

免許法による教職員の認定講習は教職員生活並に身体の疲勞と學校教育の無法な破壊だと一時は認定講習不參加を教員組合で決議されたが文部省では今度國立大學の通信による認定講習の教育講座を設け九月から實施して機會均等を圖ることになつたこの通信教育により山間へき地の教員、何學年をも一人で受持つ教員等は添削によつて指導終末の試驗日のみ試驗場に行き合格認定を受ければよくなつた

賞金付きで

競輪場工事着手

平競輪場の建設工事は堀江工業指名請負によつて着工された、十一月二十五日までに競輪施行に支障ない程度に工事を進捗せしめる計畫で工事が進捗すれば市から請負者に百万円の賞金を贈與し、計畫通り進捗しない場合は請負者から市に違約金として百万円納付すると云ふ特殊契約が結ばれ約二千万円の大工事を約三ケ月間で完成せしめる突貫工事である、市としては賞金や違約金の問題よりも十一月二十五日迄に完成し十一月中に競輪を施行出來る出來ないかが競輪による收益に大きな問題であり、市當局では是が非でも豫定通り工事の進捗を計る方針でそのため二十四日開いた市議會に「工事請負金の前渡に關する件」を提出、平市競輪場の建設、工事は堀江工業指名請負によつて着工された、十一月二十五日までに競輪施行に支障ない程度に工事を進捗せしめる計畫で工事が進捗すれば市から請負者に百万円の賞金を贈與し、計畫通り進捗しない場合は請負者から市に違約金として百万円納付すると云ふ特殊契約が結ばれ約二千万円の大工事を約三ケ月間で完成せしめる突貫工事である、市としては賞金や違約金の問題よりも十一月二十五日迄に完成し十一月中に競輪を施行出來る出來ないかが競輪による收益に大きな問題であり、市當局では是が非でも豫定通り工事の進捗を計る方針でそのため二十四日開いた市議會に「工事請負金の前渡に關する件」を提出、平市競輪場の建設工事に限り請負輪場建設工事に限り請負金の承認を得たのの案の承認を得たのの承認するものとの承認を得たのの承認するものとの承認を得たのの承認するものとの